



# 結城農業かわら版



発行元：結城地域農業改良普及センター  
TEL：0296-48-0184  
FAX：0296-48-2682

第141号  
令和4年2月20日



## 八千代町でブドウの栽培講習会が開催されました！

1月21日、八千代町中央公民館で、新規栽培希望者を対象にした八千代町主催のブドウ栽培講習会が開催され、27名の生産者が参加しました。講習会では、県農業総合センターの専門技術指導員等が以下の点について説明しました。

### 【講習会内容】

- ・国内や県内のブドウの栽培情勢
- ・シャインマスカット品種特性
- ・切れ目なく販売をするための品種構成
- ・栽培管理や栽培スケジュール
- ・ブドウ栽培を始める時の必要経費や労働時間
- ・ブドウ栽培に対する支援事業の内容 等

特にブドウ栽培は定植～収穫まで時間がかかることや、管理作業が難しいことが説明されました。

今回の講習会の内容を参考にして、八千代町で新たなブドウ栽培が始まる事が期待されます。



## 結城地域農村青少年プロジェクト実績発表会を開催

1月21日、結城普及センターで結城地域農村青少年プロジェクト実績発表会を開催しました。プロジェクト発表2課題、意見発表1課題が発表され、岩田女性農業士、後上青年農業士、岩淵センター長より講評をいただきました。また、有限会社大地の代表である吉原将成農業経営士より、「我が家の農業経営」と題して講演がありました。

### 【発表内容】

#### プロジェクト発表①（結城4Hクラブ 渡邊竜一氏）

土壌診断を基にした施肥により、秋どりキャベツの品質が向上し、所得が増加することを発表しました。

#### プロジェクト発表②（きりちゃんふぁーむ 中山舞香氏）

独自の直売方法による食農教育や、加工品等による地域おこしへの取り組み事例を発表しました。

#### 意見発表の部（八千代町 谷中溪氏）

就農1年目に学んだことや、今後取り組みたいことについて発表しました。

#### 講演内容（常総市 吉原将成農業経営士）

トマト生産やイチゴの観光農園、加工品の製造販売等を行う（有）大地の取り組みや、就農してからの経営変化や今後の展望について講演していただきました。



### ☆中山舞香氏が茨城県農業青年プロジェクト実績発表会で入賞しました☆

中山氏は1月28日の茨城県農業青年プロジェクト実績発表会においても発表され、審査の結果、「茨城県農業研究クラブ連絡協議会会長賞」を受賞しました。おめでとうございます！！

# 秋冬ハクサイ収穫調査 ～生理障害低減を目指して～

1月17日、結城普及センター、JA常総ひかり、JA全農いばらき、タキイ種苗株式会社の各機関が協力して、ハクサイの収穫調査を行いました。

調査は、肥料の違いによるハクサイの生理障害発生低減効果と各品種の栽培特性の把握を目的として実施されました。

当日は、JA常総ひかり管内の生産者6名が栽培している品種を対象に、各圃場（常総市、八千代町の6圃場）で20～30株、合計100株以上のハクサイを収穫し、調製重・高さ・幅・耐寒性の強さ、生理障害の有無（ゴマ症や地抜け症状）・病害の有無（べと病）について調査しました。

調査の結果、各品種によって耐寒性に違いがあることが分かりました。また、生理障害や病害の有無は各圃場によって異なることも分かりました。

今後は、各圃場の栽培履歴がどの程度品質に影響しているかを分析し、適した栽培方法について検討していく予定です。



**注意**

## 土壌消毒剤を正しく使いましょう

**注意**

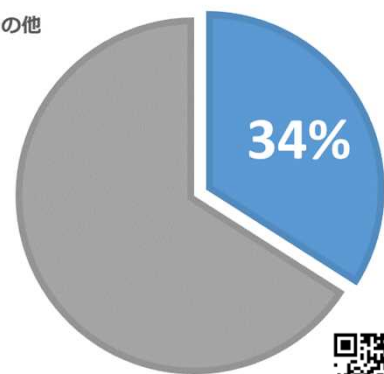
農林水産省によると、農薬使用による人への被害発生数は、過去5年間（H27～R元年度）で191人となっています。191人のうち、65人（34%）が土壌消毒後の被覆が不十分であった等、農薬使用後の管理不良が原因となっています。

環境や人へ被害を与えず、薬剤を効果的に使用するために、以下の点に注意しましょう。

- 農薬ラベルを必ず確認して、用法・用量を遵守する。
- 使用者を保護するため必ず防護服を着用するなど、適切な服装をする
- 発生したガスによって効果的に土壌を消毒するため、**クロルピクリン等、被覆を要する資材は必ず被覆をする。**
- 土壌中にガスが残っていると作物の発芽などを阻害するため、確実にガス抜きをする。

H27～R元年度農薬事故発生原因割合

■ 被覆が不十分であった等、農薬使用後の作業管理の不良  
■ その他



<データ参照元>

農林水産省HP：[https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_tekisei/accident.html](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/accident.html)



～編集後記～

今月号で取り上げたハクサイ収穫調査の写真に写っている「木の箱」は、普及センターで作成したものです。ハクサイの高さと幅を同時に測ることができる優れたものです！今回の調査も、この道具がなかったらもっと時間がかかっていた可能性も... このように普及センターでは、様々な道具を組み合わせたり、時には自作をしたりして、業務を効率的に進めることが出来るように工夫をしています。

今月号の発行で今年度のかわら版は最終号となります。1年間ありがとうございました！

根本